専攻医
の主張

医師になってからの5年間を振り返って

広島市立広島市民病院 脳神経外科・脳血管内治療科 西垣 翔平

大学を卒業し病院で働き始めて、気づくと5年半がたとうとしています。現在、広島市民病院で勤務をしており10月からは岡山大学に戻ることになっています。戻るといっても、私は他大学出身であり岡山市内に住んだこともないため「行く」という感覚であり、ほかの岡山大学出身の同期よりも緊張していると思います。それでも岡山大学の脳神経外科に入局してよかったと思っており、今回は入局のきっかけなど振り返ってみたいと思います。

私は学生の頃から脳神経外科に興味を持っていました。父親がそうだったことが最初のきっかけですが、実習中など比較的やる気をもって臨んでいたように思います。卒業後、福山市民病院で初期研修医として勤務を開始し脳神経外科を合計4ヵ月ほどローテートしました。脳卒中・頭部外傷・転移性脳腫瘍などさまざまなタイプの疾患を経験し、脳神経外科の幅広さや、検査・治療を一つの科で一貫して行えることに魅力を感じ入局を希望しました。他大学出身ですが、岡山大学の先生方には熱心にご指導いただき、非常にお世話になったのでそのまま入局させていただきました。その後、広島市民病院で後期研修を開始し、3年半勉強させていただきました。脳外科医としての心得や、患者・家族との向き合い方、手術に臨む際の姿勢など医師として働くうえで大事な部分が培われたと思います。先生方や一緒に働くスタッフの方からさまざまなことを教わり、大変感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。本当

にありがとうございます。さらに研さんを積み、皆さま方に恩返しができるよう精進していく所存です。

脳神経外科医の大きな仕事の一つに、脳卒中の診療や脳卒中の一次予防・二次予防を行うということがあります。特に脳動脈瘤クリッピング術などの脳卒中を予防するための手術加療は見ていて面白いものであり、暇さえあれば手術室に足を運んで見学したり、ネットに転がっている手術動画を見たりしています。しかし、自分がそういった手術を受ける患者さんの担当医となったり、執刀する立場になったりすると合併症を起こしたらどうしようという思いが常に頭の中心にあり、必要以上に緊張することがあります。患者さんが元気に退院するまではなかなか気を抜けません。合併症は一定の確率で発生してしまうもので、重度の場合は悪い転帰をたどります。歩いて入院してきた患者さんが不幸な転帰をたどったケースを担当したことがあり、やはり非常に責任の重い仕事をしているのだと改めて認識させられます。手術が面白いと思って脳神経外科を選びましたが、手術が怖いと思うようになるとは当初は思っていませんでした。それでも手術に魅力を感じる場面は多々あり、一生をかけてやっていきたい仕事であることに変わりはありません。日々努力し、常に謙虚に診療を続けていきたいと思っています。

関係者の皆さまにはこれからお世話になることがたくさんあるかと思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

地球温暖化防止対策(クールビズ)の実施について

本年も地球温暖化防止に向けて、冷房設定温度を上げ、下記の通りクールビズ(常識的な判断による夏の軽装)を実践いたしますので、趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

- ・実施期間 令和5年5月1日(月)から10月31日(火)まで
- ・本会役員及び職員も軽装とさせていただきます